

日ごとに寒くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

10月1日より当院に2名の医師が着任され、それにあわせまして関病院長より応援メッセージを承りました。また、着任された先生方から自己紹介いただきましたので、ご紹介します。

<関 慶一病院長>

—新しい先生を迎え、地域の医療をより充実させます—

秋は収穫の季節です。

豊栄病院にも、この10月1日から頼もしい先生方が加わりました。

整形外科には藤澤先生を迎え、二人体制で診療を行います。穏やかなお人柄で、患者さん一人ひとりの声に耳を傾け、丁寧に誠実な診療に取り組んでくださることと期待しています。

外科は、前任の水木先生に引き続き新潟大学から意欲ある若手医師として荒引先生を派遣いただきました。先生は、大腸の病気の診療はもちろんのこと、地域の皆さんが必要とする幅広い外科診療にも応えていきたいと話しておられ、大変心強く感じています。

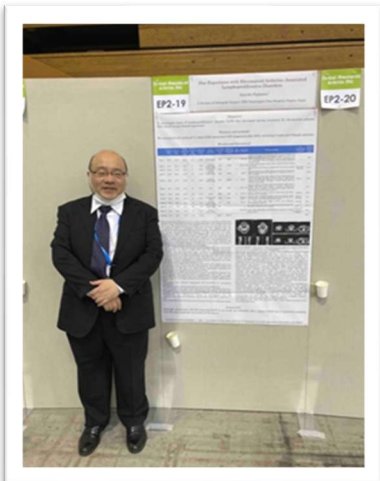
2人の新しい先生方を迎え、当院でお応えできる医療の幅がさらに広がります。病気やけがのことを相談したいとき、どこに受診すればよいか迷ったとき、身近に相談できる病院があることは、地域で安心して暮らすための大切な支えです。私たち病院職員も、この地域で暮らす一員です。これからも、地域の皆さんに安心して受診していただける病院を目指し、一層努めてまいります。

整形外科や外科の受診について、気になることやご相談がありましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

これからも豊栄病院をよろしくお願いいたします。

<整形外科 藤澤 純一 先生>

みなさん、初めまして。10月より赴任しました藤澤純一です。出身は茨城県ですが、大学から新潟に来て、もう40年がたちました。診療科は整形外科です。整形外科全般をみさせていただきます。専門は関節リウマチです。関節リウマチは生涯を見据えた治療を要します。近年は高齢発症の増加が問題になってきています。最新の知見に即した医療提供を心がけています。まだ赴任してまもないですが、当院はコメディカルとの連携が密にとれていると感じています。地域医療はチーム医療が必須だと思っています。微力ではありますが、今までの経験を生かして北区の地域医療に貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



2025年 日本リウマチ学会のポスター発表時の写真です

<外科 荒引 みちる 先生>

北海道出身、旭川医科大学卒業で、医師 13 年目の外科医です。趣味はダジャレです。

これまでは、主に大腸癌の診療・手術に携わってまいりました。経験の少ない分野についても真摯に学び、先生方や院内の各職種と連携しながら、患者さん一人ひとりに誠意をもって診療してまいります。

幅広く地域医療に貢献できるよう研鑽を重ねてまいりますので、患者さんについてお気軽にご紹介、ご相談いただけましたら幸いです。

半年間という限られた期間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。



外科外来チームとの一枚です。
右上が荒引先生です！

☆藤澤先生の外来診察日は月、火、金曜日、荒引先生の外来診察日は月曜日です。

続いては当院の紹介コーナーです。今号は栄養科を紹介していきます！

<栄養科 霜鳥主任>

栄養科は、1 階リハビリ科前にあり、管理栄養士 3 名、調理スタッフ 12 名、計 15 名の人員で構成となっています。

給食は、院内調理（直営方式）で、早番は 5:30 から遅番は 19:00 までの勤務で毎食約 3 名で調理しています。病院食は、医師の指示に基づき提供しており、昨年度の総食数は、48795 食でした。患者様すべての要望に応えられませんが、大量調理マニュアルに添った衛生管理の元、限られた食材費の中でも季節や行事食も取り入れながら、安全で心を込めた食べやすく美味しい食事の提供を心がけています。入院患者様には、1 人 1 人に栄養管理計画書を作成し、食べられない患者様には、可能な範囲で個別対応を行い、食事を通してチーム医療を行っています。

また、生活習慣病等の病気や、がん、飲み込みにくくなった・食べられなくなった等様々な状態に合わせた栄養指導も行っています。入院中、また外来受診の患者様で栄養についてのご相談がありましたら、お気軽にお声かけいただければと思います。



ある日の献立メニューです

＜福祉連携センター長 小林のひとこと＞

先日（10月26日）、駐車場で、鳴き声を聞いて空を見上げますと、白鳥が飛んでいました。調べますと、今年は10月2日にすでに瓢湖に白鳥が飛来していたそうです。冬のおとずれを実感しました。



私は、幼少時から風邪を引きやすく、母親から、下半身を温かくするように繰り返し言われました。子供のころは、そのようなことは気にもとめていなかったのですが、ある時期から、寒くなってきたときに、早めに厚手のズボン履いたり、タイツ履いたりすると、上半身をそこまで厚着にしなくても、過ごせることに気づきました。寒くなってきましたが、院内で着用している白衣のズボンも薄手なので、すでにタイツが欠かせません。

弥彦のもみじ谷（小林撮影）

発行責任者：豊栄病院 副院長
福祉連携センター長 小林 真
令和8年11月

豊栄病院（代表） TEL 025-386-2311

FAX 025-386-2370

豊栄病院 患者総合支援センター

TEL 025-386-2801（直通）、FAX 025-386-2784